

# 建設防災 ボランティアニュース 第 87 号

目次	・ 建設局初動対応訓練
	・ 徒歩点検
	・ 感謝の会
	・ 意見交換会（北北建班）

## ～建設局初動対応訓練～

令和6年度建設局初動対応訓練が、2月4日(火)に実施されました。

本訓練は、建設局職員の災害発生時における対応能力向上を図ることを目的に、東京都心南部地域を震源とする大規模地震(M7.3、最大震度6弱)が2月4日午前7時に発生し、都内で広域的な被害が発生しているとの想定に基づき行われました。

今回の訓練の特徴として、インターネット環境がある状況での災害対応能力の向上を目的に、無線機や災害時優先携帯電話に代えて MCR 用スマートフォンの使用に加え、新規デバイスとして導入されたウェアラブルカメラ、ハザードトークによる情報連絡の試行が行われました。協会にも協力依頼があり、参加会員を募った結果総勢68名が訓練に参加しました。

事務所	参加者	事務所	参加者
一建班	6名	西建班	3名
二建班	5名	南東建班	10名
三建班	3名	南西建班	4名
四建班	6名	北南建班	6名
五建班	6名	北北建班	4名
六建班	6名	東部公園班	7名
		西部公園班	2名
合計	68名		

実施後の参加協会の意見では、新たな機器類については日頃から使用に慣れること、参集可能な事務所には実践的な配置が必要、協会としての安否確認、より現実的な支援策の検討などが

寄せられました。ボランティア協会としてもより効果的な支援について検討して参ります。

担当理事 川合康文

## 初動対応訓練 in 三建

2月4日、東京都心南部地域を震源とする大規模地震(マグニチュード7.3 最大震度6弱)が午前7時に発生し、都内で広域的な被害が発生しているとの想定で、初動対応訓練が行われました。

今年度の訓練のポイントは、(1)インターネット環境がある状況での災害対応能力の向上を目的に電子データによる情報連絡訓練を実施する、(2)現場点検及び現場からの報告においてウェアラブルカメラ及び MCR を活用する、(3)各部署の意見を反映し、記載内容を簡略化した報告様式を試行する、の3点でした。

訓練は安否確認訓練、参集訓練、本部運営訓練、参加した会員は島津哲也さん、村井良輔さん、私、望月でした。



私は事務所から4km圏内に居住しているので、参集訓練に参加し、参集経路は幹線道路を優先することから、朝7時30分に自宅を出て、青梅街道、中野通りを沿道の状況を確認しながら歩き、30分程で三建に到着し、その後、受付、歩いたルートや確認した被害状況を様式に記入し終了しました。

引き続き行われた本部運営訓練には3名が参加しました。私たちは、本部運営訓練の中の応急

対策班現場点検を担当し、現場点検では、それぞれ班に分かれて、都職員とともに被害想定箇所



訓練中の様子

に自転車に向い、MCR 携帯や MCA 無線、ウェアラブルカメラなどの機器を用いて、現場被害状況を報告するとともに応急復旧作業の指示、監督を行

い、応急復旧完了を連絡しました。

機器の使用など

なんとか円滑に進めることができ、また、ウェアラブルカメラからの現場の状況が、鮮明に映し出されていて驚くとともにその活用の必要性を強く感じました。

最後に上林山次長から、「災害への備えに最も重要なのは、日頃の心構えとともに繰り返し訓練

による経験の蓄積。建設局は道路・河川・公園と、都民の命と財産にとって



上林山次長の講評を聞く

非常に重要なインフラを守る使命を担っている。いざという時に、我々がしっかりと責務を果たすことができれば、都民の生活や命を守り、未来に繋げることができます。今後も使命感をもって、建設局の果たすべき役割に取り組んでいきましょう。」との講評、訓示があり、さらに、山崎所長からは「本部長講評の概要に加え、災害対応については日頃からの備えが大事で、今回の訓練で得られた課題についても抽出・検証し、将来に活かすこと、また、ウェアラブルカメラなど新たな機器について、発災時に誰もが使えるよう、普段から使用し、習熟すること」など、訓練参加者への訓示があり、訓練が終了しました。

お天気も晴天で良く、寒い時間もありましたが、有意義な訓練でお疲れ様でした。

三建班リーダー 望月裕

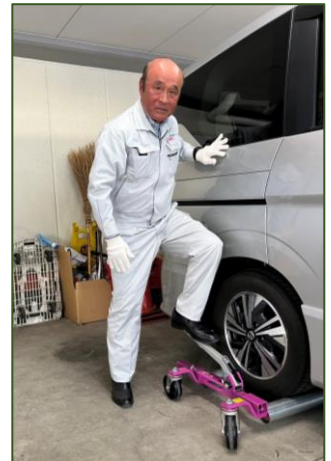
## 現場点検と車両移動訓練

四建班

令和6年度建設局初動対応訓練が令和7年2月4日に実施され、防災ボランティアからは、黒渕さん、伊藤さん、新井さん、加藤さん、小林さんと齊藤の6名が応急対策班として参加しました。

四建では、通常の参集訓練やTeams会議による情報連絡訓練、スマ

ホによるMCRを活用した点検出動訓練に加え、小型発動機の電力を使用した屋外照明設備の点灯や、ホイールジャッキを使用して車両(セレナ)をジャッキアップ、移動させるなどのオリジナル訓練を実施。防災ボラ



車両の移動訓練中;加藤さん

ンティアは、現場点検と車両移動訓練を担当しました。

高齢のメンバーは、悪戦苦闘しながらも無事訓練を完了することができました。今後、防災ボランティアも、新しい機器を活用できないといざという時には「？」と思わせられました。



松村副所長

小田中所長

訓練終了後には、所長と懇談の場を持ち、意見交換を実施。訓練後まで、対応いただいた所長、副所長はじめ、参加された職員の皆さま、本当にお疲れ様でした。

四建班サブリーダー 齊藤俊之

# 初動訓練の報告

六建班

今回の初動訓練は令和7年2月4日(火)に実施されましたが、天気は良かったものの風もあり寒い日でした。防災ボランティア参加者は5人で、4km以内に住んでいる西村さん以外は埼玉、千葉、茨城に住んでおり、平均年齢は概ね70歳です。ボランティアの参集状況ですが、10時頃には参加者5名全員が無事到着しました。

今回の割り当て担当は、作戦班河川担当に長島、支援班に岡上さん、応急対策班現場点検担当に熊本さん、横井



作戦班から状況説明と点検指示

さん、西村さんの計5名です。本部にいた二人は暖かい中での作業でしたが、現場の3人は寒い中で、ご苦労いただきました。

実際の訓練ですが、本部と現場のやり取りをする通信機器が大幅に変わってきています。我々OBにとってはその機器自体はもちろん機器名を覚えるのも大変です。

現役職員にも戸惑いが見られた感じがあります。



千住汐入大橋付近を点検中

今回の訓練では無線機や災害時優先携帯電話に変えてMCR用スマートフォンを使用するということになっていました。加えて新規デバイスとして導入されたウェアラブルカメラ、ハザードトークによる情報連絡の試行がされました。慣れのせいかもしれませんが、100%の出来ではなかったような気がしており、改善が必要と感じました。

訓練は、我々が体制に加わってから1時間15分で終了し、建設局次長の講評となり、あっという間の訓練でした。

終了後、所長室において、訓練に関わった全管理職にお集まりいただき、意見交換



をしました。参加ボランティア全員が一人ずつ意見を言わせていただきました。共通した意見として、新兵器導入は有効であるが、機器の使用方法や活かし方については定期的に職員の研修や模擬訓練が必要との意見を述べさせていただきました。



現場で緊急かつ的確に行うべき判断が疎かになるのでは、という老婆心からでした。

多分これは、六建だけではなく全事務所に言えることではないでしょうか。

六建班リーダー 長島修一

## 「新しいデバイスに苦戦」

### 連絡ができない? 東部公園班

令和6年度の初動対応訓練には、上杉俊和、大内弘、佐藤清美、鈴木進、高田賢一、細岡晃、小野敏正の7名が参加しました。7時30分から佐藤が徒歩による参集、他は10時15分からの参集でした。なお、鈴木さんは早めに参集し他の現場へ移動しました。

応急対策班の役割を担いました。この応急対策班は東部公園の職員が4名加わった10名で、震災時応急対応点検マップに定められた「緊急点検ルート」を時計周りの「南回り班」と反時計回りの「北回り班」の2班に分かれて、MCA無線に代わる「災害用無線機ハザードトークM1」を持ち、上野公園内の「被害想定箇所」の点検に向かい

ました。

園内は、平日にもかかわらず上野駅公園口改札から来園者が途切れなく続いており、本当に地震が発生したらパニックに陥った来園者でどうになってしまうのか不安になりました。特に外国人が多いので情報伝達が大変と感じました。



南回り班は、上野公園管理所でデジタルサイネージを確認、途中で「ハザードトークM1」で北回り班への状況報告(写真参照)。清水観音堂下に位置する急傾斜地崩壊の復旧状況、弁天堂の先の園路の通行止め状況を確認しました。北回り班は、竹の台広場パークサイドカフェへの倒木による漏水確認、スターバックス裏トイレの漏水による園路陥没被害状況を確認しました。



竹の台広場の交番付近で、北回り班から「ハザードトークM1」での呼びかけがありましたが、

暫く使用していないために初期画面に戻っており、ボランティアはパスワードを知らないので返事ができません。都職員に輸入してもらい、どうにか対応できました。その後、東部公園緑地事務所に戻り点検状況を報告後、根来本部長と共に Teams 会議による局長訓示を傾聴し、写真撮影後、解散しました。

新しいデバイスは、スマホと同じように使えるのでMCA無線に比べ使いやすかった。パスワードは建設局共通との話でしたが、防災ボランティアはパスワードを覚えていないので円滑に使いませんでした。また、ウェアラブルカメラも導入されているとのことなので、防災ボランティアもこれらの新しい装備になれる必要があると感じた訓練でした。

東部公園班リーダー 小野敏正

## 〔各班の参加状況〕

### 一建班



### 二建班



### 五建班



初動対応訓練翌日の5日、事務所にて五建幹部職員と初動対応訓練の反省会を兼ね意見交換会を実施しました。

初動対応訓練に加え道路施設点検等について有意義な意見交換を行うことができました。意見交換会終了後は、同じメンバーで場所を変えて懇親を深めました。(初動対応訓練に参加した菅谷さん、藤田さんは意見交換会には都合により欠席)

五建班リーダー 杉橋要

## 南東建班



## 南西建班



## 北南建班



## 北北建班



## ～～徒歩点検～～

### 徒歩点検報告 南西建班

令和7年1月29日水曜日、南西建の徒歩点検が実施されました。午後1時事務所会議室に集合。担当者より点検の概要を受けたのち、昨今、職員数の減少等により、年2回の点検実施及び点検箇所数の維持確保が厳しい状況にあるとの報告がありました。

当日の参加者は南西建から矢崎所長、佐竹副所長以下8名、防災ボランティア5名(堀内、吉田、



中込、高橋、金子)の総勢13名です。点検箇所は八王子五日市線・秋川街道の高尾街道との交差点先、川口やまゆり館前から南西建管理境の新小峰トンネルまで約8kmです。そこを2班に分け、それぞれ4kmずつ分担しました。

天気は冬晴れ、時より北風が吹く中、歩行者目線で点検開始。現場は八王子の市街地から川口川と並行して山あいの道が走り、秋川丘陵をトンネルで抜け旧五日市町へ通じる大変趣のある街道筋です。道路は両側歩道に防護柵が設置され、全体に程よく整備が行き届いている様に感じられました。

今回の点検では街渠ブロックのずれ、歩道舗装の段差、デリニエーターの破損等、点検者と状況を確認し記録しました。なお、ここでも目につきましたが、よくある事例として1つ目は大型車輛が出入りする歩道部切り下げ部において、境石、街渠ブロックのガタツキ及び破損が生じ、いずれは補修が必須となることです。2つ目は歩道上及び民地側の草木が繁茂し歩行が阻害され、冬季はそれ程でもありませんが、夏季は度々苦情が入り対応に追われ、管理者の苦労が身に染みます。点

検は1時間半程で終了し、中間地点で無事皆と合流しました。



所のマイクロバスでの帰途、少々の疲れと車内の暖さでうとうと。今回の出席率は5割弱、皆さんの体調加減が気にかかる。自分もあと何回参加できるやら。足腰鍛えて筋力アップ等々夢心地。やがてバスは午後4時新庁舎地下に到着。南西建の方々とは挨拶を交わし各自家路につきました。

お疲れ様でした。

南西建班 金子喜永



## ～久しぶりに本庁舎で開催～

### ・・・建設局長による「感謝の会」・・・

花井建設局長からお声掛けをいただいた「感謝の会」が、年が明けた1月10日(金)、都庁第一庁舎32階職員食堂において開催されました。

事務局の皆様31名、協会員64名の計95名が参加し、実に5年振りとなる本庁舎内の会場での“ホーム感”が溢れる雰囲気の中、和やかに懇親の輪が広がりました。

当日は、協会員64名、局幹部、各事務所長、田邊総務課長による司会のもと、花井局長による冒頭のご挨拶では、能登半島地震に対する石川県・輪島市への職員派遣(5名)、昨夏の19回にのぼる水防や南海トラフ地震情報への対応、2月4日に実施される初動対応訓練への協力依



花井局長

頼、都が目指す「首都防衛」に向けた協会員の経験・知見の活用などについて、お話をいただきました。

山口会長からは感謝の念を述べるとともに、当協会設立のきっかけとなった阪神淡路大震災から30年目を迎え、協会員の高齢化(平均年齢75歳!)など課題を抱えながらも、局と密接な連携を取って東京の防災活動に邁進する旨の決意が語られました。



山口会長

続く上林山次長からは、幸運をもたらす巳の年にあやかり幸多き一年を祈念した乾杯のご発声をいただき、歓談に入りました。局から差し入れていただいた日



上林山次長(乾杯の御挨拶)

本酒の効果もあって、会場は大いに盛り上がりました。現役職員の方たちと旧交を温め、また、新たな親交を深める場として、あちらこちらで歓談の輪が広がり、笑い声が絶えない2時間があっという間に過ぎていきました。

この会は、協会員の皆さんにとって建設局全体及び現場事務所の現況などを直接お聞かせいただく絶好の機会であるとともに、局と一体となって防災活動を行うモチベーションの場にもなっていると、改めて感じました。最後に登壇した湯川道路監から、“地震・雷・火事・親父”になぞらえた防災の心構え?!についてお話があった後に、盛大な3本締めでお開きとなりました。



湯川道路監

(締めの御挨拶)

最後に、本会の開催にご尽力いただいた建設局の皆様と、参加された会員に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

南東建班 岡村浩

## \*\*\* 懇親会 \*\*\*



## 北北建幹部職員との意見交換会

コロナの影響から解放され、今年度のボランティア活動は従前どおり「河川清掃」、「道路施設点検」、「初動対応訓練」などを実施してきております。一方、コロナ前に実施していた、北北建幹部職員と防災ボランティア北北建班との意見交換会が、この5年間コロナの影響で開催できませんでした。コロナ前の令和元年度には、北北建の配慮で午後から現場を案内して頂き、その後事務所で意見交換会を実施した後、懇親会を行っておりました。ここ数年、活動を続けていて何か物足りない思いがしておりましたが、この交流がなかったことに気が付きました。

そんなことで、令和6年度の活動目標に「意見交換会」の実施を掲げ、この度、北北建の協力もあり5年振りに開催することができました。

日時は、令和7年1月21日に地元立川の防災ボランティア北北建班行きつけの店で実施しました。今回は久しぶりの開催ということで所側とも調整した結果、現場見学会などは行わず意見交換会のみとしました。

北北建の参加者は、細見所長、野口工事第一課長、上村工事第二課長、柴崎補修課長の4名。防災ボランティア北北建班の参加者は、藤江賢治、野村隆、飯塚政憲、吉原一彦、奥秋聡克、小川和雄、地引尚治、江澤直人の8名です。

意見交換の議題は、「有事の際には、所側の誰とどのように連絡を取ったら良いのか」や「通常の活動以外にボランティア側への要望事項」などについて、活発な意見交換を行いました。その後、出席者全員の自己紹介や現在の仕事内容などを相互に報告しあい、和気あいあいと昔話に花が咲きました。

今回の意見交換会(懇親会)を通して、やはり相互に本音で話せる機会はボランティア活動を進めていく上で非常に大切であると感じました。特に有事の際は、まずは面識があることと日頃の円滑なコミュニケーションが災害対応する上で非常に重要であると思います。

このことを踏まえ、今後は定期的を開催することとし次回以降は、是非、コロナ前と同様、①現場見学会、②所での意見交換、③懇親会の3部構成で実施できればと願っております。

今回の実施に当たりましては、細見所長はじめ日程調整など色々に対応していただきました柴崎補修課長に感謝申し上げます。

北北建班リーダー 江澤直人

## 協会からのお知らせ

### ① イベント等の開催予定

・5月28日(水)

ボランティア協会・総会 14:00～16:00  
(道路整備保全公社17F A・B 会議室)

懇親会 17:00～19:00

② 各班の活動報告をお待ちします。ぜひ下記編集担当理事又は西村まで原稿をお送りください。

西村アドレス(iwana-246ra@outlook.com)

③ 協会のH.P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板 <http://tokyo-adv2.info/>)には、最新の情報、バックナンバー、建設局報などが載っていますので、積極的にご活用ください。なお、建設局報の閲覧には、パスワード「kyokuhou」の入力が必要です。

### \*\*\*編集後記\*\*\*

十年一昔と言いますが、私は ADV ニュース編集担当になり 13 年となり、今月号をもちまして退任予定です。この ADV ニュースも 10 年前より格段と読みやすくなってきたと実感しています。

それは編集・校正担当のパソコン技術やカメラの性能向上はもとより、読みやすい紙面づくりへの担当者の経験、努力の継続によるものと思います。

ボラ協の一年間の活動は多数あり、記事となる事象に事欠かないが、なんといっても紙面の中心は、記事投稿者の執筆協力にかかっています。今後とも会員の皆様の積極的な活動報告をお願いしまして、編集担当としてのこれまでの御礼とお別れの言葉といたします。  
(N.T)

発行人 山口明

発行 東京都建設防災ボランティア協会  
新宿区西新宿 2-7-1  
新宿第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内  
編集 加藤基雄、佐野正生、高橋紀男、  
西村行正、林幹生

